

信州飯田 座光寺

✓歴史文化の里

奈良時代に「麻績郷」と呼ばれていた飯田市座光寺地区は、豊かな自然や湧水に恵まれていたことから、古くより人々の営みがありました。地区内には国指定史跡「恒川官衙遺跡」をはじめ多くの歴史文化財があります。



元善光寺



旧座光寺麻績学校校舎



特産品のりんご

✓果樹の里

座光寺地域一帯は段丘地形を活かした果樹栽培が盛んです。サクランボ、ブルーベリー、桃、梨、ブドウ、りんご、柿などが栽培されています。中でもりんごは気候風土の点から理想的な栽培環境にあり、生産のトップを占めています。

✓2027年リニアが結ぶ

東京・名古屋間が2027年、リニア新幹線で結ばれます。飯田市座光寺地区にはリニア駅が完成し、東京・飯田間はわずか40分の時間距離になります。南信州の豊かな自然の中で「週末農業」も夢ではありません。



果樹の里

座光寺地域自治会(パラマファーム大門)
座光寺地区農業振興会議

ご連絡先:飯田市役所座光寺自治振興センター
長野県飯田市座光寺2535
☎0265-22-1401
FAX.0265-22-1475
E-mail:zakouji@mis.janis.or.jp





交流が育んだ力を 次の未来へ—。

長野県飯田市は「りんご並木のまち」として知られています。

昭和22年、飯田市は大火により中心市街地の大半を焼失しました。かつての美しいまちの復興を願って、市内の中学生が40本の苗木を植え「りんご並木」は産声をあげました。多くの市民に愛され成長した並木は、飯田市のまちづくりの象徴となっています。

原宿表参道の「渋谷川遊歩道(通称:キャットストリート)」にあるりんごの木をご存じですか。「街の一角にりんご並木をつくりたい」。飯田市を訪れりんごのある風景にふれた表参道の人々から、そんな願いが座光寺地区に寄せられました。そして2010年3月、表参道区民と飯田市座光寺市民の協働により、通りの一角にりんごの木が植えられました。その後りんごは丹念に育てられ、大きな実を結ぶまでに成長し、原宿表参道と飯田市座光寺の住民間の交流も進展しました。

りんごを仲立ちにした私たちのこれまでの歩みと、これからの夢を、ここにご紹介します。



表参道+座光寺 りんご交流

2009年

渋谷区民一行が飯田市を来訪(7月)。座光寺地区でアルプスを望むりんご園を目にする。

参加者の中から、原宿表参道の街並を美しくするために、りんごを植樹したい旨の要望が座光寺地区に寄せられる。

生育環境や植樹後の管理等を考慮し、樹種を「シナノゴールド」「秋映」に決定。

植樹祭に向けて下見、準備に入る。



2010年

3月 りんごの植樹祭開催。キャットストリートと現・代々木山谷小学校に座光寺のりんごの苗木19本を植樹。通りの一角にランドマークが完成。

6月 座光寺地区の竹を使い、表参道で竹宵による初のキャンドルナイト実施。

2011年

3月 前年に続きキャットストリート(穂田表参道)に24本の苗木を植樹。表参道に小さなりんご並木が誕生する。

2012年

9月 植樹した木に初めて50~60個のりんごが実を結ぶ。

※植樹後は座光寺から表参道に毎年出向き、りんごの樹木管理・指導を実施してきました。

表参道+座光寺 シードルPJ

私たちは、表参道の小さなりんご並木が、区民・市民の共感を促す「心の並木路」に育ってほしいと願っています。これまでの信頼関係を糧に、次のステップとして、表参道のりんごと座光寺のりんごを使ってシードル(りんご酒)をつくることを計画しました。まずは今年のりんごを使って、2018年5月にシードルを完成させ、6月に完成交流会を表参道を会場に開催します。

このシードルプロジェクトを通じて、多くの区民と市民、キャットストリートの若者と飯田市座光寺の人・自然がつながり、息の長い交流へと発展することを期待しています。



キャットストリートの小さなりんご並木

シードルPJへの期待 小池 将雄さん(穂田表参道町会 相談役)

年齢とともに(りんごの)管理がきづくなってきたが、通行人から声をかけられることもあり、商店街でもたまに話題になります。最近は商店街の若い人も手伝ってくれるようになってきました。

今回のシードルの話はとてもインパクトがあると思います。若い人が関心をもってくれることに期待したいですね。将来的には渋谷川の上流部(神宮前エリヤ)まで並木を延ばしたいとの声もあり、通り(穂田町商店街)の名前もりんごに因んだ命名ができればと思います。(談)